

2014年度 前期	リフレクションペーパー
-----------	-------------

学科名	生物環境化学科							
科目名	環境化学実験							
科目区分	専門科目	単位数	3	開講時期	3年前期			
必修・選択の別	必修科目(バイオサイエンスコース)／必修科目(食品生物資源コース)／必修科目(エネルギー・環境コース)							
担当者	西田 哲明、河津 博文、菅野 憲一							
授業の到達目標(シラバスから)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 環境化学の基礎的な考え方と関連する分析機器を正しく取扱うことができる。 2. 環境分析化学の理論を理解し、実験操作とデータ解析を行うことができる。 3. 環境材料化学の理論を理解し、リサイクル技術を説明することができる。 4. 水質浄化技術の理論を理解し、操作を正しく行うことができる。 							
日程と内容	<p>4/10 導入講義：授業の概要と進め方、成績評価法について説明 資料を配付し、成績評価を含めた重要な情報を伝えるので必ず出席すること</p> <p>4/17 分析化学実験における諸注意、実験結果の解析、レポートの書き方などについて講義</p> <p>4/24 COD測定（前半）</p> <p>5/8 COD測定（後半）</p> <p>5/15 電位差滴定（前半）</p> <p>5/22 電位差滴定（後半）</p> <p>5/29 燃料電池（前半）</p> <p>6/5 燃料電池（後半）</p> <p>6/12 原子吸光法（前半）</p> <p>6/26 原子吸光法（後半）</p> <p>7/3 高分子ゲルを用いた重金属の吸着（前半）</p> <p>7/10 高分子ゲルを用いた重金属の吸着（後半）</p> <p>7/17 廃棄物リサイクルガラス（前半）</p> <p>7/24 廃棄物リサイクルガラス（後半）</p> <p>7/31 後片付け、廃液処理など</p>							
成績評価基準	定期試験	0%	実技	40%	臨時試験	0%	部外評価	0%
	報告書・レポート	60%	プレゼンテーション	0%	課題	0%		
	演習	0%	計	100%				
授業到達目標の達成度	<ol style="list-style-type: none"> 1. 環境化学の基礎的な考え方と関連する分析機器を正しく取扱うことができる。：達成できた。 2. 環境分析化学の理論を理解し、実験操作とデータ解析を行うことができる。：達成できた。 3. 環境材料化学の理論を理解し、リサイクル技術を説明することができる。：達成できた。 4. 水質浄化技術の理論を理解し、操作を正しく行うことができる。：達成できた。 							
反省点	合格率100%を目指しているが、レポート未提出や欠席超過などによって合格率は96%に留まってしまった。							
来年度の計画	実験の欠席やレポート未提出などによって不合格になることのないように、これまで以上に念入りに注意喚起を行う。							
授業評価アンケートに対するコメント	総合評価の平均は8.6であった。							
履修登録者数	95名	定期試験 受験者数	95名	合格者数	91名	合格率	96%	